

新着本  
情報

# 公民館図書室 今月のおすすめ



スパイスカレー新手法

水野 仁輔 / 著

パイインターナショナル



テスカトリポカ

佐藤 究 / 著

KADOKAWA



彼岸花が咲く島

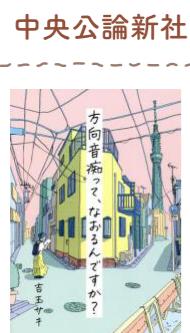
李 琴峰 / 著

文藝春秋



やってみよう！  
車中泊

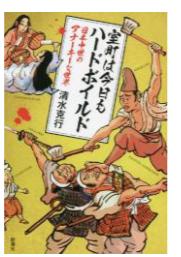
大橋 保之 / 著



方向音痴って、  
なおるんですか？

吉玉 サキ / 著

交通新聞社



室町は今日も  
ハードボイルド

清水 克行 / 著

新潮社



種から種へ命つながる  
お野菜の一生

鈴木 純 / 著

雷鳥社



子どもたちが  
つくる町

村上 靖彦 / 著

世界思想社



からあげビーチ

キリーロバ・ナージャ / 作

文響社



生涯学習情報「まなびましょ」は大桑村のホームページにカラーで掲載しています。  
掲載内容に関するお問い合わせは 大桑村教育委員会生涯学習係 0264-55-1020



9月 令和3年度 生涯学習情報

# まなび ましょ

6号 令和3年9月9日発行

大桑村教育委員会・大桑村公民館

お知らせ

## 村内公共施設の臨時休館について

長野県は9月3日から12日までを「命と暮らしを救う集中対策期間」として、新型コロナ感染症対策を強化しています。

これに伴い、村内公共施設は下記の通り臨時休館となります。また、今後の感染拡大状況により対応を変更する場合があります。ご理解ご協力をお願いします。

期間

9月3日（金）～12日（日）

休館施設

村民体育館、多目的運動広場、公民館図書室、歴史民俗資料館

利用自粛施設

中央公民館、野尻・須原地区館、各分館

## 新たな出会いの広場：新図書館

大桑村新図書館の開館まで、約1年となりました。現在、公民館図書室入口には、「新図書館コーナー」として、新図書館に関する情報を案内しています。

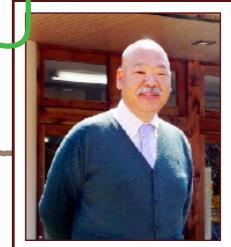
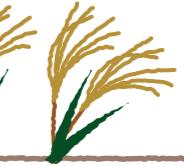
また、このコーナーでは、「図書館でこんなことできたらいいな」という、みなさんのメッセージ・質問等も募集しています。

最近はこんなメッセージをお寄せいただきました。ありがとうございます！



みなさんの「学び・交流・発信」を支援する図書館を目指して鋭意準備中です。

## 図書館準備室便り



図書館長 平中和司

以前いた職場の話。出張に行く新人君に上司が声をかけました。「道順わかる？」帰ってきた言葉は「大丈夫っす。」

この新人、大いにひんしゅくをかってしまったのですが、「～っス。」という言葉遣いは、若者の間にしっかり定着しているようです。



中村 桃子 著  
白澤社

図書室に新しく入った、『新敬語「マジヤバイっす』は、そんな「～っス」という言葉遣いを考察した本。「新敬語」という命名が面白く、「マジヤバイっす」というタイトルも斬新。

早速手に取ってみました。ところがこの本、タイトルの軽妙さからは想像できないほど真面目な本。専門用語も出てくる言語学の本でした。サブタイトルに『社会言語学の視点から』とあるのをすっかり見落としていたのです。

そういえば、その前に読んだ『最後の秘境東京藝大・天才たちのカオスな日常』にも騙されました。どんなトンデモ人間が登場するのかと思ったら、真摯に芸術に打ち込む学生たちの姿が描かれていたのです。

それぞれの本、興味深くかつ楽しく読ませては頂いたのですが、内容以上にタイトルが面白すぎないか、と思ったのも事実。

それで思い出したのが、ビリー・ワイルダー監督の映画『七年目の浮気』。マリリン・モンローのスカート一で有名な映画です。主人公は空想力…というより妄想力たくましい編集者。精神科医から預かった原稿を読みながら出版タイトルを考えます。原稿のタイトルは『人間と無意識』。もっと刺激的にしなければ売れないと『セックスと暴力』と改題し、表紙も内容とは正反対の扇情的なものに改編。

もしかしたら『新敬語「マジヤバイっす』も、編集者が大いに腕を振ったタイトルだったのかもしれません。



二宮 敦人 著  
新潮社

そんなことを考えながら本の背表紙を眺めていると、著者のみならず編集者の苦労も感じられて、また違った楽しみが出てくるのでした。